

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2013年
11月15日(金)
第101号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

墨田区職労保育園支部 署名行動の取り組み～

3回の学習会に198人、そして実行へ！

2015年4月から実施されようとしている「子ども・子育て新制度」について、保育園支部で9月下旬から10月初めにかけて、3か所でのブロック別学習会を企画し、取り組みました。組合員のなかでもこの制度について「内容がよくわからない」「内容をよく知りたい」「自分たちは何をすべきか」がありなどの声が多かったので、保育部会からのパンフレットを読み合わせしたり、意見交流を行いました。

学習会には、運動会直前の日程だったにもかかわらず、延べ198名の参加がありました。新制度によって公立がどう変わっていくのか？保護者のニーズと子どもの育ちを大切にする保育をするには今、何ができるか？等様々な意見が出されました。

宣伝署名活動、「認証保育園に3人預け月24万円」など対話はずむ

学習会後は、毎年恒例の駅頭署名宣伝行動を今年も5回計画します。初回は錦糸公園で行われている「すみだこどもまつり」に合わせて錦糸町駅前スタートさせました。

カラフルな風船を持ち署名を始めると、子どもたちが寄ってきてくれます。そのお母さんやお父さんと話をしながら、署名への賛同協力を求めるようにしていますが、近年はやはり希望してもなかなか保育園に入れない家庭が多くなっているようで、住民の方から、「署名します！」と寄ってくださる方も増えています。中には、3人のお子さんを認証保育園に預けて働いている、というお父さんが「3人で一人8万円の保育料だから、1カ月で24万円払っていた。今は、公立保育園に入れて良かったけど、ボーナスがいっきに飛んで行ったね。」と高額支払の大変さを訴えてくれました。職員の中からも「先日、認証から転園してきたお子さんのお母さんが、こんどはお庭のある保育園だよ、よかったね～」とお子さんに話し掛けていたという報告があり、公立保育園の存在意義を実感したところです。この日は2時間で約100筆の署名が集まりました。

第22回“生き生き子育てまつり”開催

保育園支部は、今年で22回になる“生き生き子育てまつり”を11月16日(土)に開催します。保育士たちによる子ども劇場や缶バッチ、あそびの広場や絵本コーナー。そしてベビーマッサージや看護師による身体測定。栄養士による離乳食や食育コーナー、区内の各保育園紹介コーナーなどの企画で親子一緒に楽しめる内容となっていて、年々一般の区民の方々にも参加が広がっています。今年も、新制度についてのシンポジウムにも挑戦予定です。公立保育園存続運動を保護者や区民の皆さんと一緒にすすめていこうと、全組合員で楽しく元気に取り組んでいます。

世田谷の取り組み

『これが保育』というものを守る2年間

～猪熊弘子さんとの懇談に運動の道筋を学ぶ～

10月24日、公的保育・福祉を守る世田谷実行委員会とジャーナリスト猪熊弘子さんとの懇談会が実現しました。猪熊さんは、世田谷版子ども・子育て会議(世田谷区地域保健福祉審議会 子ども・子育て部会)の委員です。懇談は、会議の様子と今後の運動の方向性について、をテーマに行いま

した。

会議は、学識者による子ども計画研究会と児童施設の代表、父母を加えた子ども・子育て部会との二本立てで行われており、「会議の中で変な話はしていませんから安心してください」と猪熊さん。ニーズ調査は、国からのたたき台が認定こども園へ誘導するような設問であった為、委員で話し合い、保育園を中心にしたものにしたとのこと。0～9歳各年齢で1,000名ずつを無作為抽出し、半数から返ってきた。運動でこの調査結果を、「区の子育て環境をよくしていく為に何をしたらいいか考える為に使って欲しい」と求めていくことが大切とのことでした。

横浜の実態も話され、高架下の保育園では園長先生は共同保育所出身でいい保育をしようとしているが、雨は降らないが陽も射さない環境ではいい保育をしようとしてもできないとのこと。保育内容と制度は車の両輪、との訴えが重要、と参加者に実感として迫ってきました。更に、産業廃棄物処理工場に隣接した保育園では、保護者が「不満はない」と答えるとのこと。「預かってもらえればどんなところでもいい」と父母が言えば、預かる方が「預かっているのだからどんな保育でもいい」という認識になっていく。二つは合わせ鏡のようなもので、父母や地域の人々が、例えば0歳児の面積2,46㎡の環境は保育とは言えないと感じられるような、「世田谷区ではこれが保育の普通」というものをこれからの二年間で作っておくことが重要です。

又、保坂区長が、以前行った公的保育・福祉を守る世田谷実行委員会との懇談の時に渡された手紙を、「区民からこんな激励文が来ているんだ」と見せてくれたとの話がありました。保育の質を守りながら待機児解消を目指してほしいという父母と保育関係者の願いが、じわじわとではありますが伝わっているのだとこちらが励まされました。

『父母と保育園は合わせ鏡、運動と施策も合わせ鏡、そして、保育内容と制度は車の両輪』今回の懇談で得たものを、今後の運動に生かしていきたいと思います。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】